

令和4年度埼玉県・オハイオ州グローバルスピーカープログラム前期
中間レポート（1）

貫井 菜緒

1. 自己紹介

前期メンバーとしてプログラムに参加しております、貫井菜緒と申します。現在は都内の大学に通っており、英語を中心に幅広い分野を学んでいます。英語は中学校1年生から学び始め、今年で9年目になります。

2. 応募動機

プログラムへの応募を決意した理由は、下記の2点です。

1点目は、英語力を向上させたいという強い思いがあったからです。フィンドレー大学の授業を受けることで、これまで知らなかった知識を1つでも吸収したいと思い、応募を決めました。

2点目は、ペアとの交流や埼玉親善大使としての活動に魅力を感じたからです。例えば、現地の学生とペアを組み、ミーティングを行うことが挙げられます。また、本プログラムの良さを伝えるだけでなく、埼玉県の素晴らしさも同時に発信できるという点が、他にはない特徴だと感じました。

3. プログラム概要

今回のテーマは、“More Than Words”です。文化がコミュニケーションに与える影響について学びを深めています。先日は、日本とアメリカそれぞれにおいて、適切・不適切な会話のトピックを学習しました。講義の頻度は、2週間に1回になります。その他に、現地学生との交流の時間があったり、ペアの学生とのミーティングを行ったりしています。

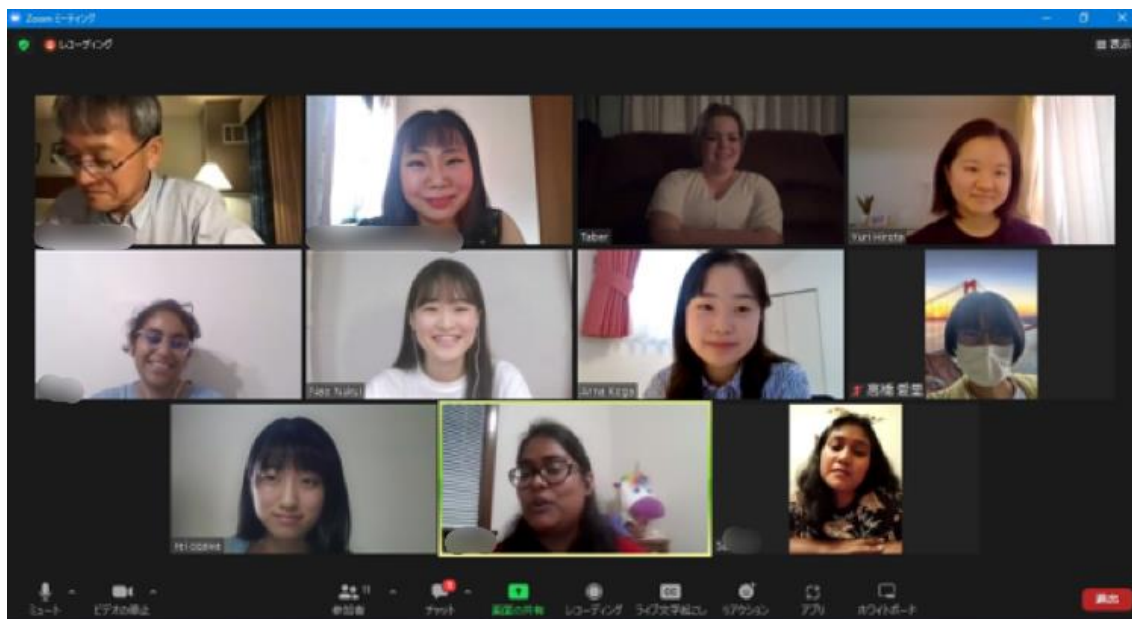
4. 魅力

プログラム開始から1カ月が経った今、魅力的だと感じているのは下記の2点です。

1点目は、幅広い人との交流機会があることです。日本人メンバーは中学生・大学生・社会人で構成されており、異なる背景をもつメンバーと一緒に授業を受けることができます。メンバーの流暢な英語を聞き、刺激をもらっています。プログラムに参加してから、英語学習へのモチベーションがさらに高まったように感じております。また、ペアの学生はアメリカの方、交流会ではバングラデシュの方といったように、本プログラム内で多様な人と関わることができています。埼玉県にいながら世界と繋がることができ、貴重な機会であることを日々実感しています。

2点目は、これまで学ぶことのなかったテーマです。現在、日本の文化的特徴について、ホフステードの6次元モデルを用いて分析しています。他国の文化を知り比較を行うことで、日本の特徴を再認識することができています。インターネットや本などでは網羅できない現地の方の声を直接聞けるという点は、このプログラムで学ぶ大きな魅力だと感じています。

残りの期間も精一杯取り組み、充実した時間を過ごせるよう努めたいと思います。



フィンドレー大学生との交流の様子